



きよかわむら

社協だより

2017
12

No.196



小さな手で

優しく肩たたき

〜清川幼稚園も組と
デイサービスの交流〜

11月1日、清川幼稚園も組の園児と保護者が村保健福祉センターひまわり館へ来館され、デイサービスの利用者との交流しました。これは、清川幼稚園の園児と保護者が年に1回ひまわり館を訪れ、デイサービスの利用者と交流をしているもので、年少のも組は今年最後の訪問でした。この日は、運動会で踊った踊りを披露した後「風船おくりゲーム」で利用者と盛り上がり、「お寺の和尚さん」の歌に合わせて手と手を取り合い、ふれあい遊びに興じました。その後、2曲の歌の披露があり、「幸せなら手をたたこう」を歌いながら、園児が小さな手で照れながら優しく利用者の肩たたきをする場面も見られました。交流は和やかな雰囲気の中で進み、利用者は「踊りが良くできていた」「かわいい子に肩をたたいてもらって嬉しかった」と話していました。最後は、園児と保護者が利用者一人一人と握手をし、「またね」と別れを惜しんでいました。

12月号 おもな内容

- | | | | |
|-----------|----|------------------|----|
| ●特集 障害者週間 | 2P | ●安くて便利な移送サービスに感謝 | 3P |
| ●清川煎茶の会 | 3P | ●社協からのお知らせ | 4P |
| ●ふれあい昼食会 | 3P | | |

※みなさまの会費の一部は「社協だより」の発行に充てさせていただきます。

特集 障害者週間

「障害者週間」は、12月3日から9日までの1週間です。平成16年6月の障害者基本法の改正により、国民の間に広く障害者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的として、従来の「障害者の日（12月9日）」に代わるものとして設定されました。今月は、「障害者週間」を迎えるにあたり、村社協が実施している「身体障害者サロン活動」のアドバイザーで、ご自身が脳性小児麻痺による障害を抱えている栗谷弘海氏に思いを伺いました。

Q 障害者を取り巻く状況についてどう感じていますか。

栗谷氏 私は日常車イスを使用して生活しているのですが、よく一人で外出しています。街中を移動していると、以前に比べて人から声をかけてもらう機会が増えるなど、障害者に対する理解が少し前進したかと思いますがまだまだです。



栗谷氏

Q 具体的にどのような場面でそう感じるのですか。

栗谷 所属しているNPO団体の活動拠点が銀座のため、電車に乗って銀座へ行くのですが、銀座四丁目交差点は移動距離が長いので、信号が青から赤に変わってしまうことがあります。そのような時に、見るに見かねて声を掛けてサポートしてくれるのは大半が中高年の女性です。サポートしてくれるのは本当に助かりますが、もう少し早い段階で声を掛けてくれたり、若い人や男性が声をかけてくれるとずっと安心して移動できると感じています。

Q 移動という面では昨年8月、盲導犬を連れた視覚障害者が駅から転落し死亡するという事故がありました。

栗谷 そうですね。私は視覚障害者の知人がいるのですが、「視覚障害者にとって駅のホームには普遍的な危険があるので、鉄道会社はホームドアを積極的に設置して欲しい。また、設置が進むまでは、視覚障害者がどのようなサポートを求めているのかを学び手助けして欲しい」とよく口にしています。鉄道会社、自治体や社会福祉協議会は、社員や住民の福祉教育に力を注いで欲しいと思います。

Q 障害者の社会参加をどのように評価していますか。

栗谷 「不安だからやめておく」という消極的な方が多いと感じています。何事も行動しなければ先には進めません。失敗を恐れず、勇気を持って行動して欲しいと思います。

Q 最後に、メッセージをお願いします。

栗谷 日本では今後、南海トラフ地震などの大規模災害の発生が予測されています。障害者は援助を待つだけではなく、今の内から地域との関わりを持ち、自分の存在を知ってもらうことが必要だと思います。同時に、地域住民は障害者の存在を知ったら、日頃から気にかけていただき、いざという時にはサポートして欲しいと思います。

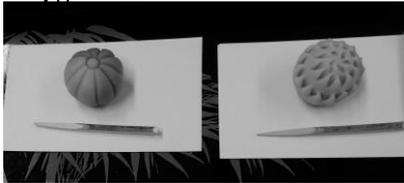
おいしい煎茶と和菓子を堪能

〜清川煎茶の会〜

デイサービスの利用者においておいしい煎茶を飲んでもらうこと10月27日、村保健福祉センターひまわり館に『清川煎茶の会』の皆さんが来館され、デイサービス利用者に煎茶が振舞われました。この日は、一煎目と二煎目の間に、山口礼子さん（荒井在住）の手作りの和菓子も振舞われ、深みのある煎茶とおいしい和菓子をいただき、利用者からは笑みがこぼれました。



「皆さんに喜んでいただけたことが嬉しい。今日も会員みんなで心を込めて煎茶をいれました」と煎茶の会代表の山口江吏子さん（柿ノ木平在住）。利用者は「香りがいい」「（お茶の味が）じんわりくる」と喜んでいました。



ハンバーグステーキと紅葉を満喫

〜ふれあい昼食会〜

一人暮らし高齢者等を対象にしたふれあい昼食会が11月16日、村保健福祉センターやまびこ館で行われ12人が参加しました。この日のメインメニューは「ハンバーグステーキ」。茹でたてのブロッコリー、ニンジンがお肉と一緒に皿に添えられ、彩りも味も抜群で利用者は「美味しい」と大喜びでした。

食後は、鳥居原ふれあいの館へ紅葉を見に出かけました。参加者はぽかぽか陽気の中、グループに別れて思い思いに紅葉を楽しみました。「この角度で見ると絶景だよ」「今までの中で一番きれいだった」との声が多く聞かれ、皆さん満足されていました。



安くて便利な移送サービスに感謝

上半期の利用が220件に！

歩行が困難等のため、一人では公共交通機関を利用することができない方に対し、福祉車両で送迎する移送サービス（福祉有償運送サービス）の利用が上半期（4月〜9月）220件を数えました。中でも、大谷勝伯さん（清水ヶ丘3区在住）の利用は53回と利用者の中でも最多でした。「このサービスがなければ移動にはタクシーを利用せざるを得ませんが、病院に行けば診察代、薬代がかかるのでかなりの出費になってしまいます。その点、移送サービスは断然安い。指定された日のみにはなりますが、買い物や床屋でも利用できるので大変助かっています」と大谷さん。下半期（10月〜3月）も利用者のご期待にこたえられるよう、5人の運転員で安全運転に努め、力を合わせて頑張りたいと思います。



障害者週間啓発事業

はーとふる・マルシェ

～障がい者手作り製品展示即売会～

障がい者福祉への理解と関心を深め、障がいの社会参加を促進するために企画したものです。

県内各地の障害福祉サービス事業所等が日ごろ作っている製品を披露いたします。

土と、人と、地域と、仕事との農福連携の商品（パン等）、手作りクッキーなど県内から色んな手作り製品を取寄せております。また、ともしびショップも趣向を凝らした販売を行います。

『障がいや障がいのある人に関する国民の関心と理解を深めるとともに、障がいのある人の社会参加を促進する』ことを啓発するための障害者週間ポスターの入賞作品などの展示もごさいます。ご来場をお待ちしております。

日時 平成29年12月4日(月)～5日(火)
午前11時30分～午後1時30分

場所 神奈川県庁新庁舎1階ロビー

内容 神奈川県内障害福祉サービス事業所等商品をお買得なお値段で出品します

その他 東日本大震災の被災地支援の一環として、岩手県釜石市の障害者作業所のお漬物も販売いたします

主催 神奈川県

(福) 神奈川県社会福祉協議会

(特非) 神奈川県障害者地域作業所連絡協議会

ともしびショップ県庁店

お問い合わせ先

神奈川県障害福祉課社会参加グループ

☎045-210-4709

編集・発行

社会福祉法人

清川村社会福祉協議会

〒243-0195

神奈川県愛甲郡清川村煤ヶ谷2220-1

清川村保健福祉センターひまわり館内

電話 046(287)1118

FAX 046(287)2013

かながわひとり親家庭

相談ダイヤル

夜間・休日にご利用いただけます！

ひとりでお悩みの方へ 日中お忙しくても、平日夜や土日祝日に相談できます。まずはお電話ください。子育て中のひとり親が抱える、さまざまな悩みに関する一次相談窓口です。相談員と顔をあわせないので、名乗りたくない場合は、匿名で相談可能です。

相談者専用電話

045-211-5213 (相談無料)

※通話料はご負担いただきます

相談内容 離婚に伴う様々な悩みや仕事、子育て、教育費などの生活上の不安、お困りごと

対象者 県内にお住まいのひとり親の方

受付時間 平日 午後5時～午後10時

土日祝日 午後2時～午後7時

※年末年始(12/29～1/3)を除く

お問い合わせ先

神奈川県子ども支援課推進グループ

☎045-285-0728

回収にご協力ありがとうございます

平成29年10月～平成29年11月

○ペットボトルキャップ 15件

○古切手 5件

年末年始休業のお知らせ

清川村社協では年末年始の業務を下記のとおり休業とさせていただきます。

休業期間 平成29年12月29日から

平成30年 1月 3日まで

※平成30年1月4日より通常業務となります。

障害者週間の特集を掲載しました。その中で、障害者の社会参加について「不安だからやめておく」という方が多いとありました。その理由は、施設整備が全て整っていないことや、社会の障害者への理解が未だ不十分であるとのことでした。誰もが安全、安心して暮らせる「共生社会」を実現するには、皆さん個人個人の協力が必要です。身近な地域のことから目を向け

はあじ
うおーむ